

平成 17 年 4 月 25 日
日本応用地質学会編集委員会

会誌「応用地質」査読体制の刷新について

会誌「応用地質」の発行は、最も重要な会員の方々へのサービスの 1 つです。会誌へ投稿された原稿の査読審査に関しては、公平・品質確保・迅速を心掛けておりましたが、これまでそのあり方に疑問を投げかけられることもありました。そこで、編集委員会では平成 15 年度より約 1 年半に渡る検討を経て、査読体制の刷新を行うことといたしました。その骨子は、以下の通りです。

(1) 査読プロセスの透明化

査読方針に関わるご質問を会員の方よりまま頂くことがありましたので、体制刷新にあたり、査読方針と査読プロセスを公開することとしました（[査読体制](#)）。この情報は、原稿を投稿する側にとっても重要であり、よりレベルが高い原稿を作成して頂く手助けとなるものと思われまます。

このプロセスの中で、投稿者は、編集委員会に対して、投稿原稿がどの段階にあるかの問い合わせと、査読結果に対する質問をすることが出来ます。なお、査読者ならびに編集担当者は従来どおり非公開とします。

(2) 編集委員会外部への査読依頼の制度化

これまでの査読では、月 1 回開催される編集委員会において、委員会が選定した 2 名の査読者が作成した査読報告書を審議するというスタイルを取っておりましたが、編集委員および編集委員の所属する組織の周辺の方に偏りがちであったとの反省に立ち、外部への査読依頼を積極的かつ体系的に推進するため、これを制度化しました。

このような体制を将来的にも維持すること、迅速に査読者を決定することを目的として、編集委員会では、学識経験者・専門家の方々を予め選定し、査読者候補リストを作成致します。リスト自体は非公開ですが、査読者候補の方々には、リストへの掲載にあたって編集委員会よりご依頼申し上げる予定です。また、投稿原稿の内容によっては、編集委員会の責任で非会員の学識経験者・専門家へ査読を依頼することがあります。

さらに、査読者と投稿者の間の公平性を保つことを目的とし、査読者と編集委員会の間に編集担当者を設置します。

(3) インターネットの活用

投稿整理カード（要旨を含む）・査読報告書の電子化、編集委員会内でのメーリングリストの活用等により、編集委員会内での情報のやり取りを密にし、原稿取扱（特に修正依頼）

等の意思決定の迅速化をはかります。この施策より、投稿後査読結果が投稿者の手元に届くまでの期間を原則 2 ヶ月程度とします。ただし、原稿受理提案に対する判断につきましては、これまで通り、月 1 回開催される編集委員会にて審議いたします。

編集委員会では、これらの体制刷新を通じ、目に見える形で審査の公平性と掲載原稿の品質向上、審査のスピードアップを計るべく、努めていきたいと思っております。また、これらに劣らず重要な点として、これまでより多くの方々に査読に参加して頂くことにより、学会全体としての活性化の一助となることを期待しております。

なお、平成 17 年 5 月 1 日受付の原稿から新体制での査読審査を開始致します。新体制に対して寄せられた皆様のご意見につきましては、随時検討を行い、一層の改善をはかっていきます。会員の皆様方におかれましては、査読へのご協力と積極的な原稿の投稿をお願い致します。

以上

掲載期限：平成 18 年 5 月 31 日